



# がんば

島原市立第三小学校  
育友会報  
発行  
広報部

【第118号】



## 教育講演会の案内

主催 二中・三小・三中育友会  
日時 11月6日(金) 午後7時30分～  
場所 島原市西八幡町「白山公民館」  
テーマ 子供を自然に帰そう！  
講師 井上 芳雄氏  
〔プロフィール〕

YMCA阿南海洋センター副所長としてセンターの管理運営に携わると共にボランティアリーダーの育成や野外活動を指導、幼児・小学生・親子の体育指導も担当する。

## 学校・育友会行事

- 10月23日(金) 県PTA連合会研究大会 (松浦市)
- 10月24日(土) 健康部・りんご皮むき大会 (3校時・5年生)
- 10月27日(火) 市内小学校連合体育大会 (2小)
- 11月8日(日) 体育部・親子つな引き大会
- 11月19日(木) 教養部・研修旅行
- 11月21日(土) 市PTA連合会主催・親睦バレーボール大会
- 11月26日(木) 授業参観日

# 第三小学校の皆さん、ありがとう

第五小学校教育友会長 永田光臣

猛暑だった夏も終わり、朝夕はめっきり秋めいた昨今、第三小学校PTAの皆様には益々御健勝の事と御推察致します。

昨年の災害以来、一年余りに亘って一方ならぬお世話になり、御迷惑もおかけ致しました。五小の子ども達にかわり、又、第五小学校教育友会を代表して心から感謝と御礼を申し上げます。お陰様で、九月一日より五小の子ども達は元氣一杯、本校での勉学と運動に励んでいるようです。

振り返ってみますと、昨年五月十五日の土石流発生以来、島原に住む人々すべてが、その影響を少なからず受け続けています。とりわけ、安中に住む私達（五小・三中を含めて）は、大自然の猛威にほんろうされ、人間の営みが小さく、もろく思えた事も一度や二度ではありませんでした。災害発生以来、五小は安中地区住民の避難所となり、六月三日の大火砕流後



は、第五小学校自らが避難校として第三小学校に長期に亘ってお世話になりました。

その間、第三小学校との二部授業、そして仮設の併設校として二つの学校の児童と一緒に学んできました。私共五小校区は、災害の直接的な影響を受け、移転もやむをえませんでした。しかしな

がら、第三小にとって五小の受け入れは本来の第三小学校のスペース（校庭や校舎）を半分提供することであり、又、互いの児童間の問題が発生しないかという危惧もあつたろうと思います。そのような中で、第三小学校の校長先生始め諸先生方、PTAの友永会長始め会員の皆様の心暖まる受け入れ態勢に、今更のように感謝の気持ちで一杯であります。

実を申しますと、私自身は災害の長期化と子ども達同志に何か起こりはしないかという懸念から、避難が一年を超えると第五小学校を新しい場所に設けて欲しいと思いい、教育委員会に対してそのような要望を出すつもりでいました。しかし、山の活動は未だ続いています、もう一方の懸念は私のまわりの無用の心配でありました。第三小学校の皆さんに暖かく迎え入れられ、子ども達も仲良く過ごす事ができました。心配とは裏腹に、誰も経験したことのない皆さんのすばらしい体験をしたと思っています。三小で一緒に学んだ子ども達は、普賢岳の噴火と共に三五小で学んだという事が、生涯忘れる事のできない思い出となる

と信じています。

私は、この災害による体験を通じて、第三小学校の子ども達と第五小学校の子ども達、共にどんな苦難にも打ち勝つ強い精神力と、困っている人や苦しんでいる人、弱い人を見たらすぐ手をさしのべるやさしい気持ちを養うことができたものと信じています。

最後に、第三小学校の関係者の方々と白山地区の皆様、市教育委員会に重ねて心からの感謝を申し上げますと共に、第三小学校の児童が二十一世紀を支える立派な人間に成長しますように念じ上げ、私の御礼の言葉と致します。ほんとうにありがとうございました。

三小会員の皆様に御礼の言葉を伝える機会を与えて下さった広報の方に感謝致します。



# 育てよう大樹に！泰山木を！

たいさんぼく

校長 橋 本 徹 也

五小の皆さんは、昨年六月からの避難生活で不自由な学校生活でした。二学期からは元の学校へもどられて、ほっとしていることでしょう。

五小の子どもたちには教えられることが多かったなとつくづく感じています。遠方からのバスでの登下校も無事故で過ごしました。先生方の指導、保護者の補導もさ

る事ながら、子どもたちがしっかりしていたからだと思えます。

五小の子どもたちは、こんな逆境の中でも整然とした運動会を見せられたし、クラブ活動なども努力し、バレーボールでは男女とも県下一を手中にするなど、目ざましい活動をしました。何回となく合同の集会をもちましたが、お互いに磨きあい、三五小がその言葉（珊瑚礁）のように輝いているようでした。

お別れにあたって、児童会より記念樹として泰山木の苗木をいただきました。将来、両校の子どもたちは、大樹となった泰山木の下で「平成の普賢大變」の話をし、立派に復興した島原の街について語りあうことでしょう。

ともに過ごした十五ヶ月間に育った絆は、決して消えることなく子どもたちの心の中で生き続けることだと信じています。

ちなみに、泰山木の花言葉は、「大自然への愛」、「高貴な精神」だそうです。



## 一、「できましたよ、動物の家」

首を長くして待っていた動物の家が夏休み明けにできあがりしました。鉄骨スレートぶき、ステンレス金網張りのりっぱなものです。新校舎・理科室の前です。

さっそく、動物さんが入居しました。チャボ…2羽（熊本さんより）、地鳥…5羽（徳田さんより）、インコ…12羽（長貫分校と宮川さんより）、うさぎ…6羽（湯江小・わかくさ園より）がにぎやかに雑居を楽しんでいます。

子どもたちは動物が大好きです。立ち寄っては、のぞきこんでいます。九月十五日よりわとりは卵を産みはじめ、30個にもなりました。早く赤ちゃんヒヨコを見たいと子どもたちは、せっかちです。

動物のお世話を通して、「生命の尊さ」など体験させたいと思っています。仮設校舎がなくなると、広い所へ移築の予定です。

## 二、「床張り替えと窓枠改修」

夏休み中に、みなさんの第三小学校がずいぶん美しく変わりました。旧校舎一階の廊下が体育館の床のように美しくなりました。職員室・校長室の床もそうです。ただ今、ピカピカと光っています。いつまでもこの輝きを保っていきたいものです。これを機に、掃除の仕方も改めたところです。昭和30年代に一度は改修した窓枠でしたが、鉄材の腐触がひどく雨もりの原因となっていました。

## 学 校 近 況

この度、二階・三階の運動場側窓枠をアルミサッシに変えてもらいました。これで雨の日の廊下の水溜りは解消します。

ところで、もとの白山側の窓枠は昔のままです。これでは六つの教室が、まだ雨もりに泣かれます。早急な対策を当局にはお願いしております。64才になる三小校舎ですが、少しずつ美しく変身させ、中味も充実させたいものです。

9/6

# 校内球技、ドッジボール大会

## 各パート成績表

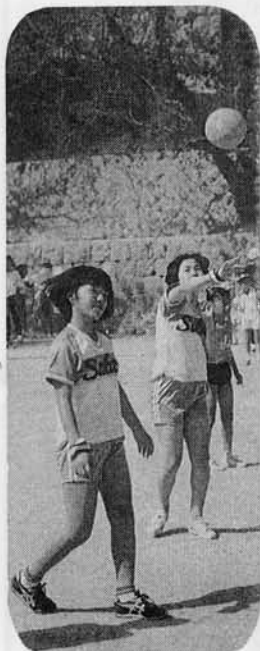
Aパート	優勝 新山二丁目	準優勝 新山西
Bパート	優勝 栄町 A	準優勝 南下川尻町 B
Cパート	優勝 霊南町	準優勝 津町・有馬船津町 A
Dパート	優勝 緑町 B	準優勝 緑町 A



選手宣誓、ガンバリマス！



ポーズとするな！（監督の声援）



ヨッコラショ！



きたぞ～、逃げろ～



水まきもつらいよ！



笑顔がステキです



マケナイワヨ!



私の出番!



躍動するリズムです

快晴  
のも

# 運動会開かれる!

## 第14回北村西望教育美術展の案内

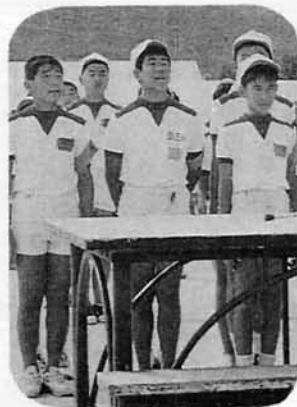
日時 11月6日(金)～8日(日)

場所 島原文化会館・展示ホール

※市内、小・中学校児童・生徒が夏休み中に  
作成した入選作品が展示されています。

子ども達と出かけてみませんか!

勉強になりますよ!



表彰風景

# 坂上子供会大相撲

普賢岳の噴火が始まり、二年が経過しようとしています。ようやく各地で恒例の行事が再開されるようになりました。坂上子ども会大相撲もその一つです。今年も五小の子ども達も含め盛大にやろうと計画され、仮設住宅の建設で使用できなくなった会場を移し、土俵づくりから始められました。大会当日(八月十九日)は、降りしきる灰の中、父兄の方々ははじめ、相撲好きのおじいちゃんやおばあちゃん方も大勢つめかけ、

大声援の中で熱戦が繰り広げられました。地域の健全育成会や、町内会、



育友会等の協力のもとに催されたすばらしい大会でした。

市P連ドッジボール大会

新山西・新山一丁目合同チーム

見事優勝の栄冠に輝く!

夏休み期間中の八月二十三日、島原市立第一中学校体育館で島原市PTA連合会主催ドッジボール大会が開催されました。

参加総数一〇チームの内、三小から新山西・新山一丁目合同チーム、栄町、南下川尻町の各子供会より参加があり、並みいる強豪チームを連破し、見事新山西・新山

一丁目合同チームが「晴れ」の栄冠に輝きました。

新山西・新山一丁目合同チームは、この日の為にユニホームを新調しての出場となり、内野センタ―に陣取る新山西の友選手と外野の新山一丁目の中島選手との絶妙のコンビで次々と相手選手を倒し、勝利の栄冠を手中におさめました。

## 編集後記

二期期より三・五小(珊瑚礁)と慣れ親しんだ五小の子ども達が本校に帰り、三小の子ども達は一抹の寂しさを感じながら勉学に運動にといそしんでいるのではないかと思います。

昨年六月に発生した大火砕流により、五小本校を追われ三小に仮の学び舎を求め、三小の子ども達と共に勉強に運動にと頑張ってきた五小の子ども達が「友情と絆」を胸に秘め、本校でたくましく頑張っている姿を想い、声援を送ります。

がんばり一八号は、メインテーマに両校育友会が子ども達と同様これまで培った「友情と絆」が末永く続く事を願い、五小育友会永田光臣会長に投稿をお願いし、三小保護者へのお礼と思いを執筆していただきました。

# 健康部だより



学校五日制が、九月十二日よりスタート致しましたが、皆様の御家庭ではどのような一日を過ごされたでしょうか。

おそらく、新しい制度の第一回目ということで、「親の立場」ではかなりストレスを受けた方々も数多くいらっしやったのではと思われまます。

先日の新聞(九月二十八日・西日本新聞)に、長崎県教委が行なったアンケート結果が掲載されていました。小学生では、意外にも『自由に遊んだ!三七%』が第一位であり、県内で開催された一〇〇以上のイベントに参加した割合は、わずかに十五、二%であつ

たこのことです。

この結果のよしあしは別として、子ども達にとつては、土曜日なのに「休み」ということでの解放感と、日曜・祝日は違った意味での「ゆとりの時間」が過ごせたのではないのでしょうか。

「大人の立場・親の立場」のみで、この制度の目標達成を急ぐのではなく、「それぞれの子供・自分の子供」が了解できる過ごし方の選択を助言してやるべきでしょう。きつともさまざまな生活体験の中で、子供なりの問題解決能力が向上し、心身とも健康な「たくましさ」が養われるはずですよ。